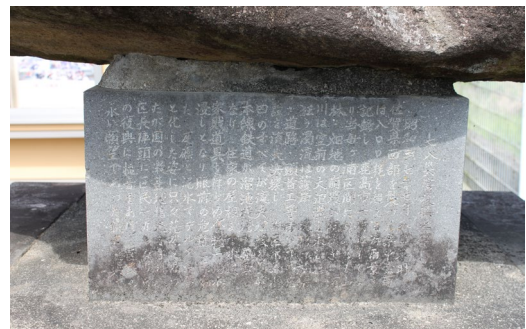


番号	84	災害復興之碑		
所在地	鹿島市音成 1 2 2 9 母 ^{ほう} ヶ浦公民館			
災害別	昭和 3 7 年（ 1 9 6 2 ） 水害			
目的別	記念碑	建立年	昭和 4 4 年 1 1 月	
特記事項	一部判読困難			



鹿島市音成の母ヶ浦^{ほう}公民館前に建つ昭和 3 7 年 7 月 8 日水害（七八災害）の災害復興之碑。母ヶ浦^{ほう}地区では、長崎本線が地区を締切る堤防となって、鉄道の内側は溜池の様相を呈したため、鉄道や国道の暗渠の撤去拡幅が住民の悲願であった。

「七八災害復興之碑 昭和三十七年七月八日未明佐賀県西部を襲った集中豪雨は八〇〇 耗を超える降雨量を記録し、鹿島市一円はもとより当母ヶ浦区間に於いても山林・畑地の崩壊が相次ぎ、河川は空前の大氾濫を来し猛り狂う濁流は護岸・堤塘・橋梁・道路・頭首工等すべての施設を流失決壊し、当区水系水田のすべてが流失埋没し長崎本線鉄道が溜池堤塘の要素となり、住家の屋根まで水没家財道具をはじめ食料一物水浸しとなり眼前の危難に慄えた。瓦礫と泥水でデルタ地帯と化した姿に只々呆然となったが国の激甚地指定をうけ区長陣頭に区民一丸となりその復興に鎚音をあげ区民の永い願望であった鉄道暗渠国道暗渠の撤去拡幅に関連し有明海岸線より延



長二三七〇・六米、幅二四十米、橋梁六ヶ所頭首工一四ヶ所、農地八七町歩、一六〇、三二七、〇〇〇円の巨費を以って昭和四一年三月まで四ヶ年の長期に亘り、区民はもとより県口口つての精進と日夜の努力によってこの暗渠大改良復興が完成したのである。」



集落の入口を横切って走る長崎本線と 母ヶ浦川に架かる鉄橋



国土地理院電子国土 Web